

日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会)名 CIGR分科会 更新日 2012/9/21
(2009/05/01の形式)

国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際農業工学会
(欧文) International Commission of Agricultural and Biosystems Engineering
(略称) CIGR

日本学術会議加入年(西暦) 1995 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) Presidium (2011/1/1~2012/12/31)

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Fedro Zazueta	Da-Wen Sun	Past President, Søren Pedersen	Toshinori Kimura
(国)	USA	Ireland	Denmark	Japan

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

4年に1回開催される世界大会(World Congress)の総会で、4年任期の役員として理事会理事(約15名)及び常置技術部会理事(7部会91名)が選出される。会長は2年に1回の総会で選出され、次期会長、前会長として2年ずつ計6年間、会の運営に携わる。事務局長はWorld Congressの間の年に選出され(任期は4年、2期継続が望ましい)、会の継続性を保っている。

加入国・地域の数 99 ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

ITALY, USA, JAPAN, DENMARK, GERMANY, UNITED KINGDOM, SPAIN, CANADA, CHINA, FRANCE, RUSSIAN FEDERATION, BRAZIL, AUSTRALIA

国際学術団体のホームページURL <http://www.cigr.org>

国際学術団体の年間運営経費 30,000ユーロ
日本の分担予定額[事務局で記入] 559千円(2012年度)

国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの 参加者数	学術会議共催/ 協賛の有無
2012	CIGR-AgEng2012, International Conference of Agricultural Engineering	Valencia, Spain	1093	62	無
2011	CIGR International Symposium 2011	Tokyo, Japan	250	200	有
2010	XVII CIGR World Congress 2010	Quebec City, Canada	820	43	無
2009	5th CIGR Section VI Internat. Tech. Symp.	Potsdam, Germany	200	15	無
2008	2nd CIGR Internat. Conference 2008	Iguassu Falls City, Brazil	800	25	無

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの 代表者名	学術会議の 代表派遣数
2012	総会、執行役員会、理 事会、技術部会	Valencia, Spain	62	野口 伸 木村俊範 真木太一 梅田幹雄	4
2011	執行役員会、理事会、 技術部会	Tokyo, Japan	25	木村 俊範 岸田 義典 真木 太一	0
2010	総会、執行役員会、理 事会、技術部会	Quebec City, Canada	46	木村 俊範 真木 太一 村瀬 治比古	3
2009	執行役員会、理事会、 技術部会合同委員会	Potsdam, Germany	50	前川 孝昭 佐藤 洋平	2
2008	総会、執行役員会、理 事会、技術部会	Iguassu Falls City, Brazil	48	前川 孝昭 真木 太一 佐藤 洋平	3

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

CIGR Newsletter (年4回)、CIGR Handbook I-VI, CIGR Electric Journal (published on website)、2010年から印刷版も発行

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<p style="text-align: center;">国際機関等の提唱で行った活動</p> <p>国際農業工学会はISOの連携メンバーで、農業機械の規格化について関与しているが、ISOの要請で農薬と土壌影響、農薬散布の人体及び作物への影響についての検討を要請され、各常置技術部会が対応している。</p>
<p style="text-align: center;">国際機関等への提言等</p> <p>国際農業工学会はFAO, OECD, UNESCOと連携しており、地球温暖化に伴う家畜生産性への影響を第2技術部会が検討し、その成果を本学会のWebsiteに公表し、関係する国や機関の活用に供している。</p>
<p style="text-align: center;">国際事業等への参加・実施等</p> <p>国際農業工学会はローマクラブにつぐ国際的提言団体であるClub of Bolognaと連携し、農産物生産物の安全の確保に関する研究事業に第6部会の食品加工専門委員会が対応した活動を行っている。2009年のドイツ国ポツダムにおいての取りまとめが期待されていた。</p>
<p style="text-align: center;">全世界的/地域的研究課題への取組み</p> <p>国際農業工学会はICIDと連携して、世界的な問題となっている水資源の確保に関して、2007年に重要な国際会議を開催した。その後2009年11月にモロッコでも共同開催した。また、アジア、アフリカ地域で農地管理や、農村開発ならびに農村の景観の保全など常置技術部会を横断的にまたがる問題について時限的に作業部会を設置し世界的/地域的な課題に取り組んでいる。</p>
<p style="text-align: center;">発展途上国への対応</p>

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

<p>国際灌漑排水学会 (ICID)、国際園芸科学学会 (ISHS)、国際土壌耕耘学会 (ISTRO) 及び世界森林研究機構連合 (IUFRO) と連携して地球温暖化防止や持続的開発に関する研究の推進を図っている。</p>

国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
事務局長	木村 俊範	2010	2013
理事	岸田 義典	2011	2014
監事	真木 太一	2011	2014
第7技術部会長	二宮 正士	2011	2014
第3技術部会幹事	野口 伸	2011	2014

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 CIGR分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

日本農業工学会

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
農業農村工学会	10228	http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaicae/
日本生物環境工学会	1063	http://wwwsoc.nii.ac.jp/seikan/
日本農業気象学会	859	http://wwwsoc.nii.ac.jp/jaicae/
農業機械学会	1219	http://www.j-sam.org/index-j.html
農業施設学会	530	http://www.sasj.org/

学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名
所属分野別委員会

CIGR分科会
農学委員会・食料科学委員会

分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
野口 伸	大政 謙次	清水 浩	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
2	12	0

分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

- 国際農業工学会(CIGR)に関して我が国としての対応を審議する。
- 我が国がCIGRを通して世界の食糧生産・環境問題の解決に貢献する活動を推進する。
- CIGRと日本農業工学会の協力により国際的な視点で農業工学とその技術の進歩発展に資する活動を推進する。

今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2012/4/19	副委員長に大政謙次委員を選出した。CIGR-AgEng2012における役員選挙に臨む基本方針について審議した。その結果、Incoming PresidentとしてProf. Tadeusz Juliszewski (Poland)、Secretary Generalとして梅田幹雄委員に投票することを承認した。さらにCIGRの国内アクティビティ向上に資する方策についても審議した。
2011/12/20	分科会役員を選出し、22期分科会の運営について審議した。平成24年度総会への代表派遣候補者を決定した。また、CIGRの認知度を高めるため、日本農業工学会や関連学会とより一層の連携を図ることが確認された。
2011/9/30	CIGR国際シンポジウム2011の終了報告とホームページ内容の更新、報告書作成の検討、決算収支案の検討、第22期CIGR分科会への引継の検討、第21期CIGR分科会解散
2011/7/29	CIGR国際シンポジウム2011の推進とホームページ内容の更新、開会式スケジュールの確定と祝辞の検討、全体プログラムの検討、CIGR次期事務局長案の検討
2011/5/11	CIGR国際シンポジウム2011の推進とホームページ内容の更新、市民公開講座の増強の検討、プログラム案の検討、投稿論文の締め切り日確定、予算案の検討
2011/3/29	CIGR国際シンポジウム2011の推進とホームページ内容の更新、オーガナイズドセッションの検討、プログラムの素案作成、投稿論文の締め切り延長

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- ニュースレター(年4回)を発行し、関連学会を通して配布している。
- 日本農業工学関連学会を通じて広く研究者に情報を周知するように努力している。
- 日本農業工学会ホームページに掲載して連絡を周知している。

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

- CIGRの組織運営状況はCIGR分科会より国内学協会にEメール等で情報提供を行う。
- CIGRの組織役員の我が国からの推薦は関連学協会からの情報を収集して対応している。
- 2011年につくば市で開催した国際シンポジウム2011は関連学協会との連携のもと運営した。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

恒常的活動：第21期は分科会を13回開催し国際シンポジウム等の開催を検討した。
加入団体と分科会との関係：密接な連絡活動を実施、1997年に欧米以外から初めて会長を選出。
分科会と国内学会との関係：国内の農業工学連合体の日本農業工学会と密接に連絡、CIGR分科会委員長は日本農業工学会理事
総会における投票総数：総数93票のうち日本は16票で最多
他国の加入状況：99ヶ国

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

- 国際シンポジウム2011(2011.9.19-23)をつくば市において開催した。
- 日本農業工学会創立25周年記念の各種行事に参加・協力して、国内委員会活動も積極的に行っている。
- 国内アクティビティを向上させるために2012年7月にスペイン・バレンシアで開催されたCIGR-AgEng2012に我が国から参加した研究者に対して以下の3賞を選考し授与した。
 - ・Best Paper Award(4件)
 - ・Honorable Mention Paper Award(7件)
 - ・Outstanding Contribution Award(60件)
- 今期(2010~2013)もCIGR事務局及び事務局長を日本で引き受けている。理事・監事を我が国から出しており、CIGRにおける我が国のプレゼンスは高い。さらに、来期(2014~2017)もCIGR事務局・事務局長を日本(京都大学)におくことが2012年7月の総会で決まった。